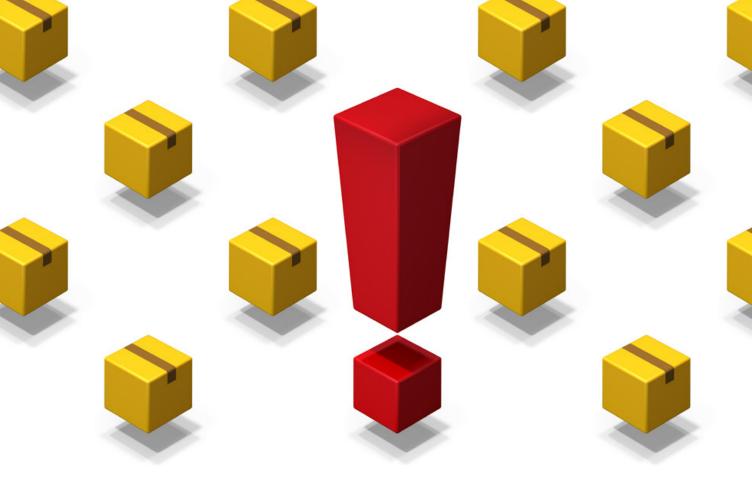
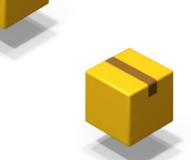
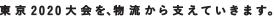
公益財団法人　日本ハンドボール協会 編
平成30年8月1日発行（毎月１回１日発行）　通巻582号

ハンドボール

8
AUG.2018
No.582

●JAPAN CUP 2018 高崎（女子・日本代表vsポーランド代表）
●日韓定期戦2018
●インターナショナルマッチ（男子・日本代表vsブラジル代表）
●第6回東アジア（U-22）選手権

公益財団法人　日本ハンドボール協会

世界が驚く、物流をつくろう。

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー

詳しくはこちら http://www.yamato-hd.co.jp/tokyo2020/ 世界が驚く、物流をつくろう。 検索

プレミアム・リゾートという選択

一戸建て住宅型有料老人ホーム

メディケアサポートHABA
2017年12月伊豆高原にオープン
12/1(金)より予約申し込み開始！
☎ 0557-51-7887 (担当 土屋・はば)

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズや、社有物件も展開！
待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。
弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは
女子ハンドボールを応援しています!!

株式会社ユリカコーポレーション
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　http://yurika-co.jp/

みなさまの日頃のご搭乗に、心より感謝申し上げます。
わたしたちは日本で唯一の５スター エアラインです。

おかげさまでANAは、2017年も英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで世界最高評価「5 STAR」を獲得いたしました。お客さまへの感謝の気持ちと日本で唯一の5スター エアラインとしての誇りを翼に乗せて、これからもみなさまを快適な空の旅にご案内いたします。

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER

www.ana.co.jp

5 STAR AIRLINE
SKYTRAX

※2017年3月現在

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

Behind Your "Best"

車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手

競泳
瀬戸 大也 選手

バドミントン
髙橋 礼華 選手

ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

味の素㈱は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

\ がんばる人のチカラになるごはん /

勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。
味の素㈱は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。

東京2020オフィシャルパートナー
(調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品)

ハンドボール 8月号 No.582

【表紙の写真】
JAPAN CUP 2018 高崎

CONTENTS

07 総務全般および財務管理について
——(公財)日本ハンドボール協会常務理事・工藤雄三

JAPAN CUP 2018 徳島
08 戦評

日韓定期戦2018男子
10 結果・選手団名簿

日韓定期戦2018女子
11 結果・選手団名簿

インターナショナルマッチ(男子・日本代表vsブラジル代表)
12 選手団名簿
13 戦評
14 サイドレポート

第６回東アジア(U-22)選手権
16 選手団名簿・星取表
17 参加報告——U-22男子監督・植松伸之介
19 男子戦評
21 女子戦評

22 諸会議報告

23 競技規則運用に関するガイドライン(2018年7月1日IHF試行)を受けて
(公財）日本ハンドボール協会競技本部 審判委員会

25 平成30年度全日本大会担当レフェリー研修会
26 研修会に参加して——岐阜県協会・若森 紗羅良
27 研修会に参加して——富山県協会・堀田 侑佑
28 審判員への指導——全日本社会人連盟審判長・吉田 敏明

29 【熊本通信】2019女子ハンドボール世界選手権大会に向けた今年度の取組み
—熊本で２つの国際大会を開催—

31 【食事の大切さを改めて考える】
正しい水分補給はできていますか？
—— (公財)日本ハンドボール協会 医事専門委員会／スポーツ栄養士
和洋女子大学 健康栄養学類 スポーツ栄養学・永澤 貴昭

がんばれハンドボール 20 万人会「サポート会員」6 月入会・継続会員

【青森】田辺貴美子【群馬】永井史子、酒井　宏【埼玉】南木貞夫【東京】増田美穂子、岡本康男、梶間珠美【神奈川】河野卓也、吉澤和美、木本一成、稲葉鋭夫【愛知】黒部泰弘、持田公一郎【三重】稲垣貴大【広島】小笠原泰代【福岡】日野祐一郎【沖縄】崎田尚孝

次号 9 月号（No. 583）は 9 月 1 日発行予定です。

総務全般および財務管理について

公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事

工藤 雄三

日頃は、日本ハンドボール協会の事業活動に対して多大なるご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

昨年 10 月に日本協会は新体制がスタート致しましたが、私も今回の体制見直しにより常務理事を拝命し、重責を担う立場となりましたので、ご挨拶をさせて頂きます。

まずは、新体制の発足が遅れたことにより、ハンドボールに関係する全ての方にご心配とご迷惑をお掛け致しましたことに改めてお詫び申し上げます。

今回、私は、日本協会の総務全般と財務管理の本部長を担当させていただくことになり、すでに半年が過ぎてしまいました。

まずは、総務担当として各事業部の企画・運営が行われていること、各種会議体の開催及び運営等がタイムリーに実施されていること、事務局運営が維持管理されていることなど総務全般を広い目線で確認し、運営していきたいと考えております。そのためには、現状の課題を洗い出し一つ一つの内容にムダはないかなど、きめ細かな対応をする必要があると考えております。

また、財務担当としましては、現状の予算状況を各事業別に把握し、透明且つ繊細な予算管理を行い、必要か否かを評価して必要される事業であればしっかり投資する、そうでなければ控えるなどの判断が素早く出来る体制づくりに取り組んで参ります。

特に、平成 30 年度の事業運営に関する基本方針（抜粋）にもありますように、①日本協会の改革「事業執行の透明化と確実な決済」は、財務との関わりも非常に大きく、財務業務に関わり方々が高い意識を持って業務遂行に取り組めるようにすることが重要です。次に②ガバナンス・コンプライアンスの強化ですが、昨今のスポーツ界で起きている問題についても規程・規則をしっかり見直していくことで皆様の信頼回復に努めて参ります。

総務・財務として次のプロモーション活動は成功させる必要があります。

「代表チームの強化」は財源確保が出来る活動を行い、「国際大会の国内開催」は認知度アップとファン拡大および収益増を目的に活動を行い、「広報活動の充実」については広報体制の整備を行いマスコミとの接点を増やし付加価値を上げる。そのためにも総務・財務担当としても各プロモーション活動と深い関わりとこだわりを持ち、常にお客様目線で活動をして参ります。

以上のようなことを行うことで、少しでも 2019 年熊本女子世界選手権および 2020 年東京オリンピックの成功と日本代表選手の活躍やメダル獲得に向けて精一杯取り組んでいく所存でございますので、何卒皆様のご理解とご支援の程宜しくお願い申し上げます。

JAPAN CUP 2018 高崎

女子日本代表 vs ポーランド代表

2018年6月23日（土）14:00
高崎市・高崎アリーナ

日本　26(11−13､15−7)20　ポーランド

試合開始40秒日本は勝連のサイドシュートで先制。しかし、ポーランドのモンチェカ、コハニャクのカットインからの攻撃に続けざまに退場者を出し、全員攻撃の失敗によるポーランドGKクルパからの直接シュートやノセクのミドルシュートなどで1対4とリードを許す。その後日本のGK板野の好セーブ、原の7mスロー、ポーランドのパスミスからの速攻などで5対5の同点に追いつく。その後も日本の早いクロスからの永田のポストシュート、ポーランド・シャラヴァガの高さのあるポストシュートなどで一進一退の攻防を繰り返し、前半を11対13とポーランドのリードで折り返す。

後半開始早々、日本はたびたびチャンスを作るがポーランド・クルパの好セーブに合い得点できず。逆にポーランド・マテゥシュチクのシュートなどで 11 対 14 とリードを許す。しかし、その後、日本のプレスのきいたディフェンスにポーランドが攻めきれず、日本は角南のカットインからのシュートなどで 6 分ついに 14 対 14 の同点に追いつく。さらに日本の 7 人攻撃・早いクロスからの池原のサイドシュートなどで得点を重ねる。一方ポーランドもコハニャクのポストシュートなどで追いすがる。しかし、日本は、板野の好セーブなどで徐々に点差を広げ、26 対 20 のスコアでついにタイムアップを迎えた。

背番号	ポジション	名前	所属
2	PV	永田　美香	北國銀行
3	PV	角南　果帆	ソニーセミコンダクタマニファクチャリング
4	RB	角南　唯	(公財)日本ハンドボール協会
5	LB	塩田　沙代	北國銀行
7	RW	藤田　明日香	ソニーセミコンダクタマニファクチャリング
9	CB	横嶋　彩	北國銀行
12	GK	板野　陽	広島メイプルレッズ
13	LW	勝連　智恵	オムロン
15	RB	多田　仁美	三重バイオレットアイリス
21	RW	池原　綾香	Nykøbing Falster(DEN)
24	LB	原　希美	三重バイオレットアイリス
25	CB	大山　真奈	北國銀行
28	PV	永田　しおり	オムロン
39	GK	寺田　三友紀	北國銀行
41	LB	河田　知美	北國銀行
81	CB	石立　真悠子	JJGANG

日韓定期戦2018 男子

開催期間：2018 年 6 月 25 日
開 催 地：韓国・ソウル
会　　場：SK ハンドボールアリーナ（オリンピックパーク内）

日本代表　18(9−14､9−11)25　韓国代表

役職	名前	所属	
団長	福地和彦	(公財)日本ハンドボール協会	
ヘッドコーチ	Dagur Sigrudsson	(公財)日本ハンドボール協会	
アシスタントコーチ	舎利弗　学	(公財)日本ハンドボール協会	
GK コーチ	北林　健治	(公財)日本ハンドボール協会	都城工業高等学校
トレーナー	飯田　純一郎	(公財)日本ハンドボール協会	J・フロントライン
分析	吉田　洋志	(公財)日本ハンドボール協会	仙台大学

背番号	ポジション	名前	所属	生年月日	身長	出身校
5	PV	酒井　翔一朗	トヨタ紡織九州	1992.08.15	188	大阪経済大学
6	RW	稲毛　隆人	Valur	1991.11.19	182	大阪体育大学
10	LW	杉岡　尚樹	トヨタ車体	1994.04.18	177	中央大学
13	PV	笠原　謙哉	トヨタ車体	1988.05.15	197	東海大学
15	LB	部井久アダム勇樹	中央大学	1999.04.21	194	博多高校
16	GK	甲斐　昭人	トヨタ車体	1987.04.29	184	日本体育大学
18	LB	成田　幸平	湧永製薬	1989.06.15	191	大阪体育大学
19	RB	徳田　新之助	Dabas VSE KC	1995.12.06	178	筑波大学
20	RW	渡部　仁	トヨタ車体	1990.01.17	183	日本大学
21	LW	土井レミイ杏利	Chartes Métropol Handball28	1989.09.28	181	日本体育大学
22	GK	坂井　幹	豊田合成	1995.11.10	191	筑波大学
25	RW	元木　博紀	大崎電気	1992.02.14	182	日本体育大学
31	LB	吉野　樹	トヨタ車体	1994.07.13	182	明治大学
33	CB	東江　雄斗	大同特殊鋼	1993.07.06	183	早稲田大学
35	PV	小室　大地	大崎電気	1988.06.28	189	日本体育大学
44	CB	門山　哲也	トヨタ車体	1983.10.22	186	日本大学

日韓定期戦2018 女子

開催期間：2018年6月25日
開 催 地：韓国・ソウル
会　　場：SKハンドボールアリーナ（オリンピックパーク内）

日本代表　20(9－14、11－13)27　韓国代表

役職	名前	所属	
監督	Ulrik Kirkely	(公財)日本ハンドボール協会	
コーチ	櫛田　亮介	(公財)日本ハンドボール協会	三重バイオレットアイリス
トレーナー	高野内　俊也	(公財)日本ハンドボール協会	(一財)日本予防医学協会
トレーナー	岩谷　美菜子	(公財)日本ハンドボール協会	ながい接骨院
分析	嘉数　陽介	(公財)日本ハンドボール協会	
総務	藤田　愛	(公財)日本ハンドボール協会	

背番号	ポジション	名前	所属	生年月日	身長	出身校
1	GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタマニファクチャリング	1977.09.26	170	大阪福島女子高校
2	PV	永田　美香	北國銀行	1994.05.28	180	四天王寺高校
3	PV	角南　果帆	ソニーセミコンダクタマニファクチャリング	1993.01.05	166	大阪体育大学
5	LB	塩田　沙代	北國銀行	1989.03.21	172	高松商業高校
7	RW	藤田　明日香	ソニーセミコンダクタマニファクチャリング	1996.02.14	167	四天王寺高校
9	CB	横嶋　彩	北國銀行	1990.07.03	162	環太平洋大学
12	GK	板野　陽	広島メイプルレッズ	1993.02.02	174	大阪教育大学
13	LW	勝連　智恵	オムロン	1989.04.14	158	宣真高校
15	RB	多田　仁美	三重バイオレットアイリス	1991.10.13	166	日本体育大学
20	RW	秋山　なつみ	北國銀行	1994.07.23	161	大阪体育大学
24	LB	原　希美	三重バイオレットアイリス	1991.03.09	170	日本体育大学
25	CB	大山　真奈	北國銀行	1992.12.07	165	大阪体育大学
28	PV	永田　しおり	オムロン	1987.10.24	171	福岡女子商業高校
39	GK	寺田　三友紀	北國銀行	1987.01.06	170	大阪体育大学
41	LB	河田　知美	北國銀行	1990.06.30	160	大阪体育大学
81	CB	石立　真悠子	JJGANG	1987.01.18	166	筑波大学

インターナショナルマッチ(男子・日本代表vsブラジル代表)

日時　2018年6月29日(金)17:00
　　　2018年6月30日(土)14:00
会場　大田区立大森スポーツセンター

第1回強化合宿・JAPAN CUP・インターナショナルマッチ【メンバーリスト】

役職	名前	所属	
団長	福地和彦	(公財)日本ハンドボール協会	
ヘッドコーチ	Dagur Sigrudsson	(公財)日本ハンドボール協会	
アシスタントコーチ	舎利弗　学	(公財)日本ハンドボール協会	
GK コーチ	北林　健治	(公財)日本ハンドボール協会	都城工業高等学校
トレーナー	飯田　純一郎	(公財)日本ハンドボール協会	J・フロントライン
トレーナー	事柴　壮武	(公財)日本ハンドボール協会	広島大学大学院
分析	吉田　洋志	(公財)日本ハンドボール協会	仙台大学

背番号	ポジション	名前	所属	生年月日	身長	出身校
3	LW	小澤　広太	大崎電気	1985.12.09	171	法政大学
5	PV	酒井　翔一朗	トヨタ紡織九州	1992.08.15	188	大阪経済大学
6	RW	稲毛　隆人	Valur	1991.11.19	182	大阪体育大学
10	LW	杉岡　尚樹	トヨタ車体	1994.04.18	177	中央大学
13	PV	笠原　謙哉	トヨタ車体	1988.05.15	197	東海大学
15	LB	部井久アダム勇樹	中央大学	1999.04.21	194	博多高校
16	GK	甲斐　昭人	トヨタ車体	1987.04.29	184	日本体育大学
18	LB	成田　幸平	湧永製薬	1989.06.15	191	大阪体育大学
19	RB	徳田　新之助	Dabas VSE KC	1995.12.06	178	筑波大学
20	RW	渡部　仁	トヨタ車体	1990.01.17	183	日本大学
21	LW	土井レミイ杏利	Chartes Métropol Handball28	1989.09.28	181	日本体育大学
22	GK	坂井　幹	豊田合成	1995.11.10	191	筑波大学
23	PV	橋本　明雄	豊田合成	1993.02.17	185	関西大学
24	LB	信太　弘樹	大崎電気	1989.06.24	188	日本体育大学
25	RW	元木　博紀	大崎電気	1992.02.14	182	日本体育大学
26	GK	久保　侑生	大同特殊鋼	1988.05.24	186	筑波大学
30	RB	高智　海吏	トヨタ車体	1985.01.22	186	筑波大学
31	LB	吉野　樹	トヨタ車体	1994.07.13	182	明治大学
33	CB	東江　雄斗	大同特殊鋼	1993.07.06	183	早稲田大学
35	PV	小室　大地	大崎電気	1988.06.28	189	日本体育大学
44	CB	門山　哲也	トヨタ車体	1983.10.22	186	日本大学

[1日目]6/29(金)17:00

日本代表　31(13−16、18−16)32　ブラジル代表

試合開始、速攻により渡部がシュートを決め日本の先制、その後も小室、元木がシュートを確実に決める。一方ブラジルもギマランイスがミドルなどで3得点の活躍をするも開始10分6対4と日本がリード。19分過ぎ11対12と初めてブラジルにリードを許したところで日本はタイムアウトを請求した。21分、ブラジル49番が2分退場で日本が数的優位となるがGKアルメリダがシュートを止めチャンスを生かすことが出来ず。ブラジルもノーマークを作るも坂井がシュートを止めた。20分までは点の取り合いとなっていたが、20分過ぎからは両キーパーが踏ん張り13対16とブラジルリードで前半を終える展開となった。

後半からは出場の部井久をトップにおき5-1へシフトチェンジした日本、ディフェンスから流れを作り部井久が速攻で2連取する。ブラジルもサントスが高さを生かした豪快なロングシュートで得点を重ね点差が詰まらない。14分ドゥトラが2分間退場により7mスローを与えられこれをしっかり徳田が決める。その後も2分間退場中に東江がカットインを落ち着いて決め25対25同点とした。その後も日本が点数を取ればブラジルも点数を取る展開、同点で迎えた残り38秒ブラジルボールのところでタイムアウト、残り3秒フィーリョからサンタエラへのポストパスが通りこれを落ち着いて決めた。31対32ブラジルの勝利でブザーが鳴り試合終了となった。

[2日目]6/30(土)14:00

日本代表　29(15−16、14−15)31　ブラジル代表

日本のスローオフで試合開始。ブラジルは非常に高いディフェンスシステム。高智のシュートで日本が先制。序盤より激しい攻防。めまぐるしいポジションチェンジでブラジルディフェンスの切り崩しを試みる。対するブラジルはフィジカルを生かした豪快なプレーで応酬。10分、6対6の同点。得点を重ねていた吉野の退場やパスミスが響き、前半18分4点差まで広げられる。しかしここから日本も息を吹き返す。ブラジルのスカイプレーを成田がカット、そのボールを受け取った門山が速攻を決めるビッグプレーで19分10対11と日本が詰め寄ったところで、ブラジルはたまらずタイムアウト。日本の体を張ったディフェンス、久保の7m阻止、酒井の速攻阻止などGKも活躍し、一進一退の攻防が続く。トレドの強烈なステップシュートやドゥトラの巧みなミドルシュートで日本を突き放そうとする。しかし、ラスト1分、成田の2連続速攻で1点差まで詰め寄り、ブラジルに1点返されるも、7人攻撃から杉岡のサイドシュートが決まったところで、タイムアップ。15対16ブラジルリードで前半終了。

後半開始早々、東江のシュートで同点に追いついた日本は、流れをつかむ。GK坂井の連続ファインセーブ、吉野の連続シュート、元木の速攻で開始5分一挙に3点差まで広げる。その後も日本の勢いは止まらず、東江のカットイン、東江から小室へのバックパス、杉岡が7mスローでループシュートを決めるなど、日本のナイスプレーが続き、12分25対20と5点差まで広げる。15分笠原の退場でブラジルが息を吹き返す。打点の高いサントスのロングシュートや連続速攻で19分1点差まで詰め寄る。その後、日本は渡部のカットインで得点するも、ブラジルはアッキバルスのサイドシュート、ナンチスの速攻がきまり、ラスト5分、とうとう同点に追いつかれる。ナンチスの打点の高いロングシュートで逆転を喫した日本は最後のタイムアウト。ここから7人攻撃を仕掛けるが成功せず。日本1点ビハインドのラスト30秒でブラジルがタイムアウト。日本は最後まで諦めずボールを奪いに行くが、最後はアッキバルスが本日6点目のサイドシュートを確実に決め、終止符を打たれる。29対31で日本は敗戦を喫した。

サイドレポート

2018年6月29日（金）の試合は大田区立大森スポーツセンターにて大田区民限定招待試合として開催された。昨年6月の東京2020オリンピックに向けたブラジル選手団の大田区内での事前キャンプ受入決定を受けて、ブラジル男子ハンドボールチームが6月28日（木）から7月6日（金）までの合宿期間中での試合であった。2016年リオデジャネイオリンピックでは7位のブラジルは大半の選手がスペイン等欧州で活躍しており、この日10得点の№26ギマランイス選手もスペインリーグで活動している。引き続き明日も同会場で「彗星JAPAN」と対戦する。

事前キャンプ実施の幟

会場に掲げられた、大田区とブラジルの旗

長い髪を束ねている、
№26ギマランイス選手

河合・臼井コンティネンタル審判

髪型が特徴的な、№19ファビオ選手

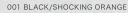
FAST
MORE

フィッティングを追及した軽量スピードモデル

GEL-FASTBALL 3

THH546 / 本体価格 ¥11,800+税

5001 インシグニアブルー × ホワイト

001 BLACK/SHOCKING ORANGE

第6回東アジア(U-22)選手権

開催期間：2018年7月3日～7月8日　開催地：香港・九龍　会場：Kowloon Park Sports Center

男子選手団

役職	名前	所属
団長	栗山　雅倫	(公財)日本ハンドボール協会 東海大学
監督	植松　伸之介	(公財)日本ハンドボール協会 明星大学
コーチ	大房　和雄	(公財)日本ハンドボール協会 高岡高陵高校
GKコーチ	吉田　耕平	(公財)日本ハンドボール協会 関西大学北陽高校
トレーナー	渡部　真弘	(公財)日本ハンドボール協会 さがみが丘整骨院

背番号	名前	所属
1	石濱　塁	同志社大学
2	佐藤　陽太	駿台甲府高校
3	久保寺　歩夢	駿台甲府高校
4	可児　大輝	中部大学春日高校
6	窪田　礼央	県立氷見高校
7	安平　光佑	県立氷見高校
8	清水　裕翔	県立氷見高校
9	吉田　守一	県立那賀高校
11	藤川　翔大	筑波大学
12	矢村　裕斗	神戸国際大学附属高校
13	角本　洵	熊本国府高校
14	山口　直輝	高知中央高校
15	石嶺　秀	興南高校
16	大禮　佑介	関西大学北陽高校
18	梶山　瑞生	神戸国際大学附属高校
19	金津　亜門	四日市工業高校
25	蔦谷　大雅	大阪体育大学浪商高校

女子選手団

役職	名前	所属
団長	栗山　雅倫	(公財)日本ハンドボール協会 東海大学
監督	田中　潤	(公財)日本ハンドボール協会 県立高松商業高校
コーチ	芳村　優太	(公財)日本ハンドボール協会
ドクター	松村　健一	(公財)日本ハンドボール協会 多根総合病院
トレーナー	木村慎之介	(公財)日本ハンドボール協会 木島病院

背番号	名前	所属
1	千葉　夏希	不来方高校
5	阿部　美幸	早稲田大学
6	伊藤　愛莉	関西学院大学
9	安田　つぐみ	富岡東高校
10	岡田　彩愛	高水高校
11	田沼　美津希	東京女子体育大学
12	榊　真菜	東京女子体育大学
13	抜水　うらら	大阪体育大学
14	平野　宗香	日川高校
15	谷藤　悠	不来方高校
16	柿添　まどか	明光学園高校
17	紅林　詩乃	早稲田大学
18	江本　ひかる	高水高校
19	宇治村　唯	今治東高校
20	守屋　葵	市立高津高校
21	上田　遥歌	東海大学

男子星取表

順位		KOR	JPN	TPE	HKG	CHN	MGL	勝	分	敗	総得点	総失点	得失点差	勝点
1.	韓国		33○20	31○17	36○13	29○14	47○12	5	0	0	176	76	100	10
2.	日本	20●33		26△26	33○16	29○16	45○13	3	1	1	153	104	49	7
3.	チャイニーズタイペイ	17●31	26△26		32○22	29○24	58○23	3	1	1	162	126	36	7
4.	香港	13●36	16●33	22●32		25○24	30○22	2	0	3	106	147	-41	4
5.	中国	14●29	16●29	24●29	24●25		40○18	1	0	4	118	130	-12	2
6.	モンゴル	12●47	13●45	23●58	22●30	18●40		0	0	5	88	220	-132	0

女子星取表

順位		KOR	JPN	CHN	TPE	HKG	勝	分	敗	総得点	総失点	得失点差	勝点
1.	韓国		31○28	37○27	36○23	34○18	4	0	0	138	96	42	8
2.	日本	28●31		24○15	27○21	27○18	3	0	1	106	85	21	6
3.	中国	27●37	15●24		23○22	20△20	1	1	2	85	103	-18	3
4.	チャイニーズタイペイ	23●36	21●27	22●23		24○22	1	0	3	90	108	-18	2
5.	香港	18●34	18●27	20△20	22●24		0	1	3	78	105	-27	1

参加報告

U-22男子監督　植松 伸之介

はじめに

第６回 U-22 東アジア選手権出場にあたり、日本ハンドボール協会の関係者をはじめ、選手を派遣して頂きました所属チームの先生方やご家族の皆様には、多大なご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、日本からたくさんの心温まる応援メッセージを送ってくださった方々には、この場をお借りして心からお礼申し上げます。国際大会の経験が少ない選手が多い U-19 日本代表にとっては、９月のアジアユース選手権前にとても良い経験をさせて頂きました。本当に有難うございました。

大会報告

今大会に入るまでに、３回の強化合宿（合計 12 日間）を行いました。第１回強化合宿（３月１日〜４日・NTC）では選手選考をメインに、基本練習と基本技術の確認、第２回強化合宿（４月 23 日〜 26 日・大同特殊鋼）では、基本練習から戦術確認、大同特殊鋼との練習試合を通じて大まかなチームの方針を固めました。そして、大会直前の第３回強化合宿（６月 28 日〜７月１日・NTC）において、具体的な戦術確認をし、国士館大学との練習試合で実戦するとともに課題発見に努めました。

今大会の出場国は、日本、中国、モンゴル、台湾、香港、韓国の６ケ国。22 歳以下の大会であるため、19 歳以下の選手で戦う日本にとっては厳しい戦いが予想されましたが、日本のハンドボーラーの代表であり、期待されている存在であることを自覚し、勇気を持って戦うことを約束して戦いに挑みました。

初戦は中国。この試合が、初めての国際大会経験である選手が大半でした。序盤、硬さは見られたものの、物怖じせず日本らしさの一つである堅守速攻の形が徐々に現れ、終わってみれば 29 対 16 と危なげなく試合を終えることができ、幸先の良いスタートをきれました。

２試合目のモンゴル戦は、国際試合特有の闘志剥き出しの激しい攻防にも慌てることなく、冷静に対応して、目指すべきハンドボールを表現することに徹し、内容も良く勝利しました。

３試合目の相手はフル代表選手を擁する台湾代表。能力・体格ともに日本より優れ、戦術レベルも高いチームでした。試合は序盤から一進一退の攻防が続き、前半は両者譲らず 15 対 15 で折り返しましたが、後半は出だしから連続失点が続き、７分には 16 対 20 とリードを許しました。そこから途中出場した GK 矢村、DF 山口の活躍で猛追し、後半 20 分には同点に追いつきました。その後はお互い意地の DF で得点を許さない攻防が続き、26 対 26 の同点で試合終了。４点差を追いついた後半の戦い方はチームとして成長を感じるゲームであり、途中出場した選手が活躍したことに、選手の精神的成長・逞しさを感じるグッドゲームとなりました。

１日の休養を挟み、４試合目の相手は地元の香港代表。結果は、33 対 16 と勝利はしたものの、コンタクトの強度や連携といった技術的な課題と、何より代表選手として、どんな状況・どんな相手･どんな環境でも、「全力プレーをする事」という当た

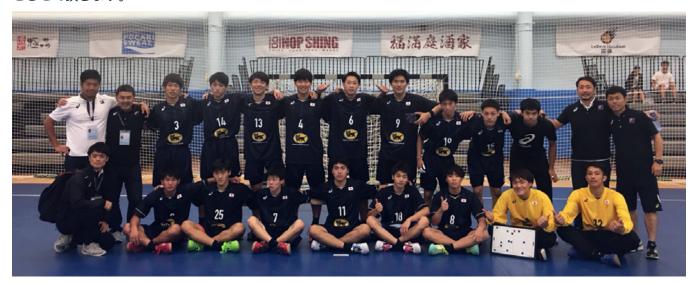
り前のことを再認識しなければならない、精神的にも課題の多いゲームとなりました。

そして最終日は、４勝で首位の韓国でした。個々の能力が高く、体格も良く、何より組織として統一された攻撃的なDFと、速い流れの中で狙いすまされるOFは秀逸であり、今大会の実力No.1チームでした。前半、安平の速く多彩なパスワークから、吉田、藤川の得点で３対３の互角でしたが、その後日本OFのパスを分断され、６連続失点を許してしまう苦しい展開となりました。なんとか流れを掴みたい所でしたが、14分・安平の7mTが相手GKの顔に当たってしまい失格処分となってしまいました。攻撃の核を失ってしまいましたが、奮起した窪田のロングや可児のミドルでなんとか８対13と喰らいつきましたが、その後は積極性を欠いてしまい、前半を９対17で折り返しました。後半は梶山の得点でスタートするも、韓国のアグレッシブなDFの前にミスを誘発され、20分には15対30とダブルスコアの劣勢を強いられました。なんとか意地を見せたい日本は、終盤にGK大禮がファインセーブを連発し、窪田、可児、山口が速攻に走り、５連続得点を記録し一矢報いましたが、終わってみれば20対33と一方的な試合となってしまいました。しかし、最後まで諦めない姿勢は評価できると思っています。そして選手達は、韓国選手の体格面を含めた強さ、それぞれのハードでアグレッシブな基本技術、強い個が連携する組織的なDFを経験し、多くを感じ、学んだに違いないと確信します。

今大会はカテゴリーが上の大会ではありましたが、選手たちは臆することなく、試合を重ねるごとに強くなり、チームとしての一体感が生まれました。また、どんな状況であってもベストを尽くして戦おうとする姿勢に、スタッフ一同が成長と勇気を感じた次第です。

終わりに

我々スタッフは、今大会の結果を丁寧に分析、修正し、選手、チームに新たな課題を持たせ、次に備えなくてはなりません。U-19チームは日本代表である自覚と誇りを胸に、９月のアジアユース選手権で４位以内を確保し、世界選手権への出場権獲得に向けてスタッフ、選手の気持ちを一つにして邁進していきます。

U-19ユース代表チームにこのような貴重な経験をさせていただいた日本ハンドボール協会の関係者の皆様、所属チームの皆様、ハンドボールに関係するすべての皆様に改めて感謝の意をお伝えさせていただき、大会の報告とさせて頂きます。

戦　評

男　子

■7月3日(火)

日本　29(13−4、16−12)16　中国

U-19チームの初陣は、高身長の選手をそろえた中国。日本チームは、DFで強く接触する事、OFでは無駄なドリブルを減らし、ボールをつなぎながら各自が前を狙うこと、どのような相手・環境でも自分の全力を出すことを約束に試合に臨んだ。序盤は、中国の高さを活かしたロングを決められ、OFでは硬さが見られ簡単なミスが連続したが、吉田、窪田の両3枚目がファインプレーを連発し、失点を抑えることに成功した。堅守速攻の形で多くのチャンスを作り出し、清水の体を張った速攻や梶山のテクニカルなサイドで、前半15分には9対3と先行する。その後もミスは出るものの全員の気持ちの入ったDFで相手の追加点を許さず、前半を13対4で終えた。

後半、中国の突破を狙ってくる攻撃に対して受け身になってしまい、間を割られる形で失点してしまう。日本は、攻めてはこの日好調の窪田、蔦屋の個人技で加点し、後半途中から変わって入ったGK大禮やDFの角本、久保寺の速攻で主導権を渡さなかった。終わってみれば多くの選手が出場の機会を得て活躍し、29対16で無事に初陣を飾ることがせきた。国際大会を初めて経験する選手が多いが、物怖じせず自分らしさを発揮して戦う姿に頼もしさを覚える。明日以降、厳しい戦いが待ち受けるが、チーム皆の心を一つにし勝利を目指して成長したい。なお、この試合のベストプレーヤーに、窪田礼央が選ばれた。

■7月4日(水)

日本　45(21−8、24−5)13　モンゴル

日本チームの第2戦はモンゴル。昨日のスカウティングでは、技術的なレベルは高くないものの、ファイティングスピリットあふれる激しい攻守が特徴的である事を確認。このゲームでのキーワードは、コート上でのコミュニケーション、バックチェックのポジショニング、DFでのファーストコンタクトの強度、OFでの2人目・3人目へのつなぎの4つ。そして、アップ前に植松監督から日本を代表して戦うことの意味・姿勢、そして代表選手に求められる姿の話をされ、モチベーションを最高潮にモンゴル戦に臨んだ。試合はモンゴルのスローオフで始まる。いきなり虚をついたシュートを放つが、これを昨日試合出場のなかったGK八村が反応、それを速攻でつなぎ、佐藤がシャープなミドルで決める。その後も、角本・吉田を中心としたDFで凌ぎ、金津・可児・石嶺の速攻につなげ、前半5分には4対0とする。その後も安定したセンターラインのDFが失点を最小限に抑え、攻めては石嶺・蔦屋・可児の連続速攻、さらに久保寺のロング、金津のカットインでリードを広げる。そして、可児・蔦屋・金津がWスカイを決め会場を沸かせ、前半を21対8で折り返す。

後半スタートは、清水の速攻、安平のタップパスからの吉田のポストで加点。焦りと疲労からラフになるモンゴルDFに対し、冷静に対応。センター安平のコントロールから、山口・吉田・石嶺・梶山が生かされ追加点。安平は自ら得た7mTでも一回転するシュートで会場を沸かした。45対13で勝利、失点は15点以内という目標も達成できた。明日はフル代表選手を要する台湾代表である。厳しい戦いが予想されるが、チームの心を一つに、まずは一つ目の困難を突破したい。なお、この試合のベストプレーヤーには蔦屋大雅が選ばれた。

■7月5日(木)

日本　26(15−15、11−11)26　チャイニーズタイペイ

第3戦はフル代表選手を擁する台湾代表。個人能力に優れ、体格もあり、戦術レベルも高いチームである。特にWu、Panは得点能力が高く、注意しなければならない選手である。試合は日本ボールでスタートする。台湾のDFシフトは変則の4-2DF。日本は慌てることなく、センター安平のリードから直ぐさま対応し、自らのミドルシュートで得点する。直後に台湾OFでポストに落とされるも、GK石濱がファインセーブしてチームを鼓舞する。台湾はWu、Panを中心に多彩な攻撃を展開し、ロング・ポスト・サイドと的を絞らせず加点、日本は安平、清水の活躍で前半15分に7対7とする。その後も一進一退の攻防が続き、前半は両者譲らず15対15で折り返す。

後半出だしからの連続失点で7分には日本は16対20とリードを許す。梶山のミドルで返すものの、Wu

戦　評

の個人技、Pan のロングを止められず、点差が縮めることができない。16 分、日本は右の 2 枚目 DF に山口、GK を矢村に変えて打開を図る。直後、台湾のノーマークを GK 矢村が 2 本連続でキープしてチームに勢いを与える。吉田、窪田、藤川の 5 連取で 21 分には 23 対 22 と勝ち越しに成功する。台湾も Pan のロングで応戦、日本は負けじと窪田が豪快なロングを叩き込む。28 分には 26 対 26 となり、その後はお互いに意地の DF で相手に得点を許さない。ラスト 20 秒、台湾の OF を凌いだ日本はタイムアウトを請求、勝ち越し点を狙うべく、OF の意思統一を図るとともに、悪くても同点で終わることを確認。最後はサイドから決勝点を狙うも惜しくも枠を捉えられず、タイムアップとなった。課題は残るが、4 点差を追いついた事はチームとして成長を感じるゲームであった。なお、身体を張った DF と、ポストから 5 得点を挙げた吉田守一がベストプレーヤーに選ばれた。

■7月7日(土)

日本　33(16−8、17−8)16　香港

中 1 日のブレイクを経ての第 4 戦、相手は地元の香港代表。日本は中国、モンゴルに連勝、続くチャイニーズタイペイには後半の粘りで引き分けとして、現在は 2 勝 1 分で韓国に次いで暫定 2 位につけている。香港は体格はないものの、スピードとフェイントに特徴のあるチームであり、ホームゲームであることもあり、決して楽な相手ではない。午前中の練習では、チャイニーズタイペイ戦で課題であった DF を中心にトレーニングを行った。ボール位置と自身のポジショニングを意識的に確認すること、6 人全員がボールサイドに密集すること、コミュニケーションを大切にしその都度臨機応変に対応することを約束した。試合は序盤、石嶺、吉田、久保寺の活躍で 4 対 1 とスタートダッシュに成功するも、YU のテクニカルなサイドを決められ、15 分時点で 9 対 6、なかなか波に乗れなかった日本セブンだが、可児が攻守に活躍、金津、山口、梶山と続き、前半は 16 対 8 で終える。

後半に入ると、日本は藤川の強打とブレイクスルー、角本のポスト、梶山の速攻で 5 連取。LEE にサイドを決められるも、藤川、梶山、清水、安平で再び 5 連取し、後半 15 分には 27 対 10 と試合を決めた。最終的には 16 失点に抑えることができたが、コンタクトの強度や連携の部分では反省点の多い試合となった。明日の韓国戦は、コンディション、戦術、気持ちの全てをベストの状態で戦う準備をしたい。なお、この試合のベストプレーヤーには先発出場し、途中コンタクトが外れるアクシデントがあったもののファインセーブを連発した GK 大禮祐介が選ばれた。

■7月8日(日)

日本　20(9−17、11−16)33　韓国

最終日の対戦相手は、暫定一位の韓国。個々の能力が高く、体格も良い。何より組織として統一され、その流れで狙いすまされる OF 力は秀逸である。韓国 OF を吉田・窪田を中心とした日本 DF が、どれだけ守れるかが焦点になる。韓国ボールでのスタート。日本は窪田をトップにおいた 5:1DF で韓国 OF の分断を狙う。韓国は LIM、KANG を中心に速いパス回しで攻撃を組み立てる。日本は安平のパスワークから、吉田・藤川で前半 5 分までは 3 対 3。その後は日本 OF のパスがつながらず、速攻を許し 6 連続失点。佐藤の突破で返すも、安平の 7mT が相手 GK の顔に当立ってしまい失格処分。攻撃の核を失うも、窪田がロングをねじ込み、可児のミドルで 8 対 13 となんとか喰らいつくも、韓国のハードなＤＦの前にミスを誘発され、前半を 9 対 17 で折り返す。

後半は梶山の得点でスタートするも、韓国の強い 1 対 1 を前に、20 分には 15 対 30 とダブルスコアの劣勢を強いられた。なんとか意地を見せたい日本セブンは、途中出場の GK 大禮がファインセーブを連発し、会場を沸かせる。それに応えるように、窪田、可児、山口が速攻に走り、終盤に 5 連続得点を記録し一矢を報いた。終わってみれば、20 対 33 と一方的な試合となったが、最後まで諦めない姿勢は今後に期待を抱かせる。

このチームのターゲットは、9 月にヨルダンで行われる世界選手権アジア予選である。それまでにチームとしてどれだけ成長しなければならず、今大会で得た多くの経験はハンドボール選手としてだけではなく人間としても大きく成長してくれたものと確信している。

戦　評

女　子

■7月5日(木)

日本　27(12−10､15−11)21　チャイニーズタイペイ

東アジア選手権の初戦の対戦相手はチャイニーズタイペイ。キャプテン・阿部、司令塔・伊藤の得点でリードするが、チャイニーズタイペイもChen、Tingらで応戦し、一進一退の攻防で試合がスタートする。11分GK・千葉のナイスセーブを皮切りに、谷藤、平野の得点で8対4と点差を広げる。しかし、チャイニーズタイペイもKuを投入、体格差を生かした反撃で3連続得点するなど追い上げ､前半を12対10で終える。

後半、日本は岡田、抜水らで着実に得点を重ねながら相手を突き離す。試合終盤には田沼や守屋がDF奮闘し、GK・柿添が幾度となくビッグセーブで相手の追い上げを阻止する。攻めては、安田、紅林らが相手DFをかき回し、27対21で今大会の初戦を勝利で飾った。

■7月6日(金)

日本　24(13−6､11−9)15　中国

東アジア選手権の2戦目の相手は中国。前半3分岡田の得点で試合が動き出す。中国のシュートがことごとく枠を外れる間に、日本は伊藤、平野らの怒涛の攻撃で一気に突き放す。たまらず中国はタイムアウトを取り、立て直しを図るが、それでも日本の攻撃は止まらない。宇治村、安田が速攻で加点すると、GK千葉のビッグセーブもチームに勢いを与え、前半を7点リードで折り返す。

後半の立ち上がりも日本のペースは止まらない。阿部、上田がセットオフェンスでゴールを奪えば、江本が速攻で相手DFを切り裂き、後半15分にはこの日最大の12点差をつける。しかし、これで終わらないのが中国。エースTian、司令塔Lyuが日本ゴールを襲い、少しずつ点差を縮めるが、守谷のナイスDFやGK榊の好セーブで簡単には流れを渡さない。終わってみれば、24対15と9点差をつけての大勝で、大会2勝目を挙げた。

■7月7日(土)

日本　27(15−9､12−9)18　香港

東アジア選手権の3戦目の相手は香港。立ち上がりは両チームともにシュートが決まらず、前半6分まで1対1というローペースなスコア展開。ここで平野の速攻が日本チームに勢いを与え、キャプテン・阿部の連打や谷藤の速攻で前半20分までに11対5とリードする。地元香港も負けじと3連打で食い下がるが、GK柿添の好セーブで流れを渡さない。前半を15対9で折り返す。

後半は日本ペースでスタートし、後半35分までに18対10と点差を広げる。しかし、地元香港が再び息を吹き返す。GK Pangが好セーブを連発し、LeeやWuらで4連取。15対19の4点差と追い上げ日本を脅かすが、対する日本も安定したDFから速攻などで6連取、一気に香港を引き離す。最後は全員出場し、27対18で大会3勝目をあげた。

■7月8日(日)

日本　28(13−17､15−14)31　韓国

東アジア選手権最後の対戦相手は韓国。ここまでの3試合で40得点を挙げているエースKimをどのように守るかが鍵となる。開始5分まで両チーム互角となったが、平野、岡田の得点で前半10分6対4と日本がリードする。対する韓国も素早い速攻ですぐさま追いつく。その後も一進一退の攻防が続くが、前半17分から24分までの7分間で、韓国が2度の3連取により一気に流れを引き寄せ、14対11と韓国が抜け出す。日本も7人攻撃を使ってキャプテン阿部や司令塔伊藤らで応戦するが、韓国の勢いは止まらず、前半を13対17と日本4点ビハインドで終了。

後半に入ると日本のDFが機能し始める。韓国のエースKimに得点は許すものの、それ以外の失点を防ぐことに成功、じわりじわりと韓国に迫り、後半10分で20対21の1点差に肉迫する。韓国もSonの切れ味鋭いフェイントで得点を重ねるが、日本の追い上げムードは止まらず、韓国は後半13分22対23の場面でたまらずタイムアウトを取り、DFの修正を図る。しかし、それでも日本の攻撃陣は止まらない。伊藤の連打で逆転に成功、24対23とする。会場は日本の応援ムードに包まれたかと思いきや、Kimが強烈なロングを日本ゴールに突き刺し、韓国が一気に4連取で流れを完全に引き寄せ、後半22分で27対24とする。負けられない日本も7人攻撃で反撃を試みるが、それを逆手に取られ、韓国GK Chaの40mシュートで失点。Kimも攻撃の手を緩めず、後半29分にはこの試合14点目のゴールを決め、試合終了のブザーが鳴り響く。日本は28対31で韓国に勝利を許し、準優勝で今大会を終えた。

諸会議報告

理事会・常務理事会・全国理事長会議・定時評議員会にて、審議・承認・報告された主な事項内容を掲載します。

平成29年度2月理事会
開催日：平成30年2月17日〈土〉
場　所：AP市ヶ谷

審議事項：
①平成29年度二次補正予算案＝承認
②平成30年度事業計画案＝承認
③平成30年度予算案＝承認
④諸規定改訂・新設案＝再審議
（コンプライアンス規程、内部通報規程、倫理委員会規程、就業規則、名誉役員規程）
⑤肖像権規程新設＝承認
⑥旅行会社登録制度新設＝承認
⑦事務局長採用＝承認

報告事項
①2020オリパラ東京組織委員会より進捗状況
②2019女子熊本組織委員会より進捗状況

平成29年度2月全国理事長会議
開催日：平成30年2月18日〈日〉
場　所：四谷　主婦会館

報告事項：
①平成29年度の日本協会運営
②平成29年度二次補正予算案
③平成30年度事業計画案
④平成30年度予算案

平成29年度3月常務理事会
開催日：平成30年3月10日〈土〉
場　所：四谷　日本ハンドボール協会

審議事項
①平成30年度第一四半期JOC強化指定選手＝承認
②平成30年度強化スタッフ＝承認
③平成30年度JOC謝金対象者＝承認

報告事項
①平成29年度JOCスポーツ賞候補者推薦
②IHFの熊本視察
③男子日本代表愛称募集
④国際大会スタッフ養成研修会
⑤全国クラブ選手権開催

平成30年度4月常務理事会
開催日：平成30年4月7日〈土〉
場　所：四谷　日本ハンドボール協会

審議事項：
①日本協会表彰候補者＝承認
②強化戦略プラン＝承認
③ブロック・連盟における医事・安全管理部門の設置＝承認

報告事項：
①平成30年度女子アジア選手権の熊本開催
②男女代表の強化スケジュール
③デンマーク（ニュークビン・ファルスターHK）、男子ブラジル代表の来日
④国際スタッフ養成研修
⑤全国大会におけるレフェリーウェア

平成30年度5月臨時理事会/常務理事会
開催日：平成30年5月12日〈土〉
場　所：四谷　日本ハンドボール協会

審議事項
①アジア競技大会メンバー＝承認

報告事項：
①IHF出張報告
②平成29年度決算見通し
③公認審判員規程の改正
④2018年6月JAPAN CUP
⑤2018年8月おりひめトライアル

平成30年度6月理事会
開催日：平成30年6月10日〈日〉
場　所：西ケ丘 味の素ナショナルトレーニングセンター

審議事項：
①平成29年度事業報告案・決算案＝承認
②諸規程改訂・新設案＝承認
（コンプライアンス規程、内部通報規程、倫理委員会規程、就業規則、名誉役員規程）
③コンプライアンス委員会・委員選任＝承認
④公認審判員規程変更＝承認
⑤平成29年度日本協会表彰＝承認
⑥日本代表派遣スタッフ・選手＝承認
⑦平成30年度第二四半期JOC強化指定選手＝承認
⑧日本リーグ組織・役員について＝承認

報告事項
①男子代表愛称（彗星JAPAN）決定
②新規協賛社（味の素株式会社）
③指導普及本部平成30年度第一四半期活動状況
④2020オリパラ東京組織委員会より
⑤2018日本選手権開催地

平成30年度定時評議員会
開催日：平成30年6月30日〈土〉
場　所：西ケ丘 味の素ナショナルトレーニングセンター

審議事項：
①平成29年度事業報告書＝承認
②平成29年度決算書＝承認

競技規則運用に関するガイドライン（2018年7月1日IHF施行）を受けて

2018年6月29日　IHFより送付
2018年7月7日　 JHA常務理事会報告

（公財）日本ハンドボール協会競技本部
審判委員会

IHF 競技規則審判委員会（以下 IHF-PRC）は，競技規則の専門家と共同で，ルール解釈において課題があったいくつかの項目について議論を行った。

その結果，特定の状況における正しい判定を明確にする意図で，下記の通り「競技規則運用に関するガイドライン」（2016 年 7 月 1 日施行）を更新および追加をすることで合意した。

なお，この改訂版は，IHF では 2018 年 7 月 1 日より施行している。

日本国内では，8 月 1 日より施行する。ただし，全国高校総体（7 月 27 日開幕）においては先行実施とする。

競技終了 30 秒間

2016 年版競技規則 8:10c および 8:10d は，競技終了間際にスポーツマンシップに反する行為によって，違反したチームが試合に勝つことを許さないことを目的としている。同時にこの競技規則は，違反されたことによって失われた攻撃のチャンスを保証し，観客にとっても競技終了までスリリングのある試合を楽しませることにある。

競技規則 8:10c では競技終了間際にスローを実施させなかった，または遅らせた場合は 7m スローによって罰せられる。また競技規則 8:10d では，競技終了間際でボールがインプレー中にプレーヤーやチーム役員による失格相当の違反行為が行われた場合，7m スローによって罰せられるとなっている。後者（8:10d）については解釈に大きな問題はない。

競技規則 8:10c は，競技の中断中に防御側プレーヤーが相手のスローの実施を妨げたまたは遅らせた場合に適用されていた（例：各種スローに対して，3m より近い位置でブロックした場合は適用していなかった）。しかし，現行の競技規則では，レフェリーやプレーヤー，その他ハンドボール関係者を誤った解釈に導いたり，例え上記例のような明らかなスポーツマンシップに反する行為があったとしても，違反をしたチームが試合に勝つことを可能としているなど，悪いイメージを与えることとなった。

以上の理由で，IHF は IHF-PRC と指導技術委員会（CCM）で構成された「新競技規則に向けてのワーキンググループ（NRWG）」を結成し，現行のガイドライン「3m の距離を確保しないとき（8:10c）」を追加することにした。3m の距離を確保せず，スローを行おうとしたプレーヤーに対して不当行為を行った場合でも，失格および 7m スローの判定をするということになる。その他の項目においても，現行のガイドラインの更新および新ガイドラインを設定する。

<ガイドラインの更新>

“3m の距離を確保しない”とき（8:10c）

競技終了 30 秒間で各種スローの実施時に相手が 3m の距離を保とうとせず，スローができなかった場合，失格および 7m スローを判定する。

この解釈は競技終了 30 秒間であっても，いわゆるノータイムスロー（2:4 の第 1 段落）であっても，行われたスローの結果を妨害した場合も適用することを意味する。この状況におけるレフェリーの判定は（17:11 における）事実判定である。

競技終了 30 秒間で各種スローに直接関連しない違反で各種スローができず試合が中断した場合（例　不正交代，交代地域でのスポーツマンシップに反する行為での違反など），競技規則 8:10c を適用する。

もし，各種スローの実施の際に，3m より近い位置にいる相手プレーヤーが，例えばブロックするなどによりスローの結果やスローの実施を積極的に妨害した場合，競技規則 8:10c を適用する。

3m より近い位置にいるが，スローの実施を積極的に妨害しなかった場合は罰則を適用しない。各種スロ

ーの実施の際，3m より近い位置にいて、シュートをブロックしたり，パスをインターセプトした場合も競技規則 8:10c を適用する。

その他の項目

＜ガイドラインの更新＞

負傷したプレーヤーの救護（4:11）

衝突などにより同じチームの複数のプレーヤーが負傷した場合には，フェリー・TD はこれらの負傷したプレーヤーを救護するために，規定人数より多くコートに入る許可を与えても良い。この場合，1 人のプレーヤーに対し最大 2 名までとする。レフェリー・TD は，許可されてコートに入った者を監視する必要がある。

＜新ガイドライン＞

パッシブプレーにおけるパスのカウント（7:11，競技規則解釈 4，付録 3 の例 13・14）

シュートがブロックされ，ボールが再びシュートしたプレーヤーに戻ってきた場合や，チームメイトに戻ってきた場合は，（ボールを保持した時点で）1 回のパスとしてカウントする。

＜新ガイドライン＞

競技規則 8:5 注に関連したゴールキーパーの失格

これは，ゴールキーパーがゴールエリアから，またはゴールエリア付近からプレーイングエリアで相手と正面衝突をした時に適用される。例えば，交代地域からコートに入り，相手と同じ方向に向かって走り込んできた場合，この条文（8:5 注）は適用されない。（交代地域からコートに入り相手と接触した場合、競技規則 8:5 注以外の理由で失格を判定される場合もある。）

＜新ガイドライン＞

無人のゴールと 7m スローの判定（14:1，競技規則解釈 6c）

競技規則解釈 6c では，ゴールキーパーがゴールエリアを離れていて，そこでボールと身体をコントロールした相手が無人のゴールにボールを投げるという，誰にも阻止できない明らかなチャンスを得たときに 7m スローを与えると定義されている。これは，ボールを持ったプレーヤーは，明らかに無人のゴールに向かって直接シュートを狙おうとしていることが前提となる。

明らかな得点チャンスの定義には，違反の種類やインプレー中かどうかにかかわらず，スローを行うプレーヤーまたはチームメイトが正しい位置にいることも含まれる。

＜新ガイドライン＞

ビデオ判定の導入

ビデオ判定の導入によって，得点かどうかの判定が必要とされる場合，得点の取り消しは現行では次のスローオフまで（9:2）となっているが，より長い期限が必要となる。その期限を，次のスローオフまでではなく，スローオフのあと，次のボール所持が変わるまでとする。

＜新ガイドライン＞

プレーヤーが異なった色や番号でコートに入った場合（4:7，4:8）

競技規則 4:7 および 4:8 に関する違反については，ボールの所持を変更しない。これは競技を中断させ，間違いを正すだけでよく，中断された時点でボールを所持していたチームによって競技は再開される。

平成30年度全日本大会担当レフェリー研修会

プログラム

日程：平成 30 年 6 月 23 日～ 24 日
場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

6月23日（土）

全日本大会レフェリー研修会（グループA／グループB／グループC）

時刻	グループA・B	グループC
12:30–13:00	受付（大研修室）	受付（大研修室）
13:10–14:00	（専用コート）研修1 シャトルランテスト	13:10–13:30（大研修室）研修2 筆記テスト
		筆記テスト終了後 更衣室または大研修室で着替え
14:00	更衣室または大研修室で着替え	14:10–14:40 研修1 シャトルランテスト
	（大研修室へ移動）	更衣室または小研修室1で着替え ※15:00まで大研修室への立入禁止
14:30–14:50	研修2 筆記テスト	（大研修室へ移動）
15:10–16:10	研修3 ワークショップ 全日本大会レフェリーとして 審判委員会委員 太田智子	
16:30–17:30	研修4 映像分析 レフェリングの実際 ～観察のポイントと立ち居振る舞い～ 審判委員長 福島亮一	

～諸連絡～

6月24日（日）

時刻	全日本大会レフェリー研修会	時刻	全国審判長会議
8:30–8:50	受付（大研修室）		受付（大研修室）
8:50–9:00	開会・日程説明		開会・日程説明
9:00–9:40	研修5 講話（レフェリー・審判長・合同研修）「全日本大会審判員に求めること」 審判委員長 福島亮一		研修5 講話（レフェリー・審判長・合同研修）
9:55–10:35	研修6 講話 平成30年度審判員の目標 審判委員会委員 池渕智一	10:00–10:50	（小研修室1へ移動）講話 審判員への指導 全日本社会人連盟審判長 吉田敏明
10:50–11:45	研修7 演習 ビデオテスト（解説付） 審判委員会委員 池渕智一	11:10–12:00	講話 審判長の経験から 東海ブロック長・愛知県協会審判長 坪井雅典
12:00–12:20	通信機器の紹介 株式会社 ベアリッジ		諸連絡
			閉会
12:25–12:35	閉会行事（諸連絡含）		
12:55–13:15	筆記テスト（追試）		

平成30年度全日本大会担当レフェリー研修会に参加して

岐阜県協会　若森 紗羅良

6月23・24日に味の素ナショナルトレーニングセンターで開催された研修会に、レフェリーアカデミー生として参加しました。

研修1日目は、シャトルランテスト、筆記テスト、ワークショップ、映像分析を、２日目は「全日本大会審判員に求めること」と平成30年度審判員の目標についての講話、演習としてビデオテストが実施されました。

ワークショップでは「ノミネートされた全国大会までにどのような準備をして臨むか」について、活き活きとした意見交換や新たな発想の誕生が期待できるワールドカフェ方式で行われ、担当する大会のジャンルを事前に吹笛しプレー強度やスピードに慣れておく、大会に参加できるよう職場や家庭の理解を得られるよう努力する、参加チームのプレースタイルなどの情報を収集するといった意見が出されました。

映像分析では、試合で発生した事象とその際のレフェリングを参考に、レフェリーが意識すべき立ち居振る舞いと判定基準について、4つの努力目標（位置取りの工夫、領域分担の工夫、ボディーランゲージを用い基準を示す、７mスローの判定）の説明があり、この４項目は普段から常に意識し取り組み、スキルを向上させる必要があると感じました。特に、ボディーランゲージについては、時間や試合展開、チームの特性に応じた手法の研究が必要と感じました。

研修２日目の講話「全日本大会審判員に求めること」は全国審判長会議と合同で実施され、レフェリーの使命として「トレーニングの成果を存分に発揮させる」が掲げられ、使命を果たすために、４項目の実践（①正しい知識に裏打ちされた判定、②ラフプレーとスポーツマンシップに反する行為の排除、③妥当性と信頼性、④コンディションの調整）が重要であり、そのためには「レフェリーとしての準備」が必要不可欠であるとされました。

レフェリーとしての準備は、事前の準備として「レフェリングに関する準備」と「身体的準備」を実践することで、精神的余裕が生まれ、精神的な準備ができることを学びました。さらに大会期間中（当日）の準備としてオフィシャルとの連携、試合前のウォーミングアップの重要性についても再認識しました。

平成30年度審判員の目標とビデオテストではコンタクトプレーを正しく見極めるために必要な視点、知識と考え方を学習しました。研修の場で、正しく見極めることをテーマとして映像を見ると判断できるものであっても、実際の試合のその場面で瞬時に的確な判定をするためには継続した学習と事前の準備が必要であると感じました。

２日間の研修では、これまでにも学習した、あるいは、様々な機会で指導・助言いただいた内容もありましたが、試合の局面で発揮できるよう整理・確認し継続した学習をできていない部分や、曖昧なままとなっていた事項もあったことを再認識しました。

今後は、今回の研修で得たものを実際の試合の中でいかんなく発揮できるよう、学習を継続し研鑽に励みたいと思います。

最後に、このような貴重な研修の機会を与えていただけましたこと、研修会でご指導・ご助言いただきました講師の皆様に感謝申し上げます。

平成30年度全日本大会担当レフェリー研修会に参加して

富山県協会　堀田 侑佑

この度、2018年度第2回レフェリーアカデミー事業として「全日本大会担当レフェリー研修会」を受講いたしました。私自身本研修会を通して、研修内容のみならず日本協会審判委員会の方々のお手伝いをさせていただく機会にもなり、幅広い学びを得ることができました。

初日（23日）のプログラムは午後のシャトルランテストと筆記テストから始まりました。モダンハンドボールの魅力でもあるスピーディーなハンドボールについていくためには、より高いレベルの体力や走力、知識が求められるということを学びました。

またこのような能力に付随して大会前の準備も重要とされており、続く研修では審判委員会委員の太田智子氏より「ノミネートされた全日本大会までにどのような準備をするか」についてワールドカフェ形式で全国各地のレフェリーの方々と意見を交わしました。そこでは多くのレフェリーの方々が大会に向けて日々準備されていることを知り、私自身も身が引き締まる思いでした。研修の最後には太田氏が行っている日々のトレーニング内容も知ることができ、今後の私自身のトレーニングの参考にもなりました。

初日最後のプログラムでは、審判委員長の福島亮一氏より「レフェリングの実際～観察のポイントと立ち居振る舞い～」について研修を受けました。映像研修の中で、なぜこの判定となったのか、より判定の信頼を得るポジショニングはどこか、等について福島氏の国際試合における経験等も含め伺うことができました。

2日目は最初に「全日本大会審判員に求めること」というタイトルで福島氏より研修を受けました。「チーム・プレーヤーにトレーニングの成果を存分に発揮させ、またコート内と交代地域の秩序を保つ」というレフェリーの使命を全うするために何が必要か、複数項目に分けて学びました。また「レフェリーチーム」という意識は重要であり、一人一人が日本協会のレフェリーである自覚をもって、日々トレーニングや学習をしていくことの大切さを再認識できました。

2日間の研修の最後には、審判委員会委員の池渕智一氏より「平成30年度の審判員の目標」について、モダンハンドボールの正しい解釈を教わりました。『得点を決めていれば多少の接触は吹かない』という解釈ではなく、『接触の際の選手に対する影響の度合い』を確実に判断していくことがスピーディーでより魅力的なモダンハンドボールにつながるとのことで、今後のレフェリングの参考となりました。

最後になりますが、2日間にわたる本研修を受講させていただき、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。審判委員会の方々の準備や、全国のレフェリーの方々の意識の高さを学ぶ貴重な機会となりました。本研修を終え、レフェリーには「競技規則に裏打ちされた豊富な知識、レフェリーチームとしての一人一人の意識、より信頼性のあるレフェリングスキル」が重要ではないかと私自身考えております。今後2019年、2020年と国内でビッグイベントが続きますが、日本が世界と戦っていくために、レフェリーとしてより高みを目指して努力を続けたいと思います。

平成30年度 全国審判長会議（2018.6.24東京）の講義より

「審判員への指導」

全日本社会人連盟審判長　吉田 敏明

＊2020年東京オリンピック　「世界と戦うために」

2015年4月15日元サッカー日本代表ハリルホリッジ監督は「激しくボールを奪い合う場面が少ない」「日本の審判は体が接触するとすぐに笛を吹いている。」「世界と闘うためには、フィジカル・プレースピードを向上するためのトレーニングに取り組まなければいけない。」と記者会見で述べた。

IHFが提唱する【モダンハンドボール】でもフィジカルの強さを求めている。

＊レフェリーもハンドボーラーであることを忘れない

レフェリーもハンドボールの発展に寄与しなければならない。

どのようなプレーを擁護し、排除すればハンドボールの戦術・技術が発達するのか、日本が世界で活躍できるのか、考えなくてはならない。

＊最終局面でなく、過程を観察して判定する

レフェリーは「判定をしなければならない」と研修を通じて教育されてきた為に、細部の判定に意識が向きハンドボールの本質を見逃しているのではないか？

レフェリーは選手・ベンチ・観衆に自分のハンドボール観を伝え、知ってもらい全ての人と共にゲームを作り上げることが役割である。

＊攻撃側に、安易にフリースローを与えてはいけない

プレイヤーの技術向上の為にレフェリーはトップチームが目指すハンドボールを研究することが必要である。

プレイヤーのミスにもかかわらず、フリースローの判定をしていないか？

プレーミス

ステップ・イリーガルドリブル（ダブルドリブル）・着地シュート

判断ミス

閉じているディフェンス方向へのカットイン・ディフェンスゾーンへ突っ込むプレー

ジャンプシュートが打てずにドリブルフェイント・ジャンプから背中を向けてディフェンスとの接触。（ディフェンスが先に位置をとった場合）

フォール後、回転してのフェイント（歩数に注目）

攻撃の意図なく、フリースローをもらいにいくプレー

＊激しいディフェンスプレー

位置関係の見極め・攻撃プレイヤーへの影響・プレーへの影響

プレイヤーの安全は守られなければならない。

ディフェンス・オフェンスプレイヤーの位置関係を観察する

正対でない限り基本的には負けの位置である。（罰則の対象）

正対していない位置関係の場合、ボールカット以外は許されない。

ボールカット失敗して、相手を倒したら、罰則の対象となる。

正対しているのであれば、相手にダメージを与えない限り、激しいアタックは許される。

＊段階罰と即座に退場・失格となるプレー

プレイヤー個人、チーム全体に与えられる警告の累積から退場が与えられる退場と違い、即座に退場・失格を与えられるプレーは質が違うことを理解する。

位置関係・スピード・強さ・相手プレイヤーへのダメージを考慮し、重大な違反を判定することにより、プレイヤーを保護することを認識しなければならない。

＊ゲームはレフェリーがリードする

レフェリーは正確な判定をするだけで良いのではなく、ゲームの進行と運営が重要な任務。ゲームを円滑に進行させるため、次のプレー・スローの指示・ポイントを選手に伝え、行動しなければならない。

特に、ゲームの立ち上がりは判定・ジェスチャー・ポイントの指示・スローなど、すべて丁寧に行うことにより選手に判定の基準・ルール通り正確にスローを実施することを浸透させ、スムーズなゲーム運営につなげる。

ベンチ・選手とコンタクトを取り、判定基準を伝えることもゲーム運営には重要なことである。

コンタクトは判定の基準を伝えることが目的であり、その判定をディスカッションすることが目的ではない。執拗な抗議とは別のものである。

レフェリーが見えていない事を再認識し、ベンチのアピールに対して横柄な態度を取るのではなく謙虚に聞く耳を持つこと。

2019 女子ハンドボール世界選手権大会に向けた今年度の取組み

―熊本で２つの国際大会を開催―

現在、2019 女子ハンドボール世界選手権熊本大会（以下、2019 熊本大会）に向けて、当局では、さまざまな準備を進めているところですが、熊本県及び日本全国において、本大会の認知度や盛り上がりは、まだまだ十分であるとは言えません。

そこで、より多くの皆様にハンドボールの素晴らしさを体感していただくことで、大会成功に向けた機運醸成を図るとともに、競技のより一層の普及・啓発を図っていきたいと、熊本県で、今年度２つの国際大会を開催します。

**①熊本地震復興応援2019女子ハンドボール世界選手権プレマッチ
「おりひめ JAPAN トライアルゲームズ 2018」**

②第17回アジア女子選手権兼2019女子世界選手権予選

これらの大会を通して、会場設営や試合運営、集客等の国際大会開催に必要なノウハウを蓄積するとともに、大会役員やボランティア等の人材の育成にも力を入れて参ります。

○おりひめ JAPAN トライアルゲームズ 2018

女子日本代表「おりひめ JAPAN」がデンマーク女子エリートリーグ（HTH Go Ligaen）の強豪「ニュークビン・ファルスター HK」を熊本に迎え、国際強化試合を行います。
「ニュークビン・ファルスター HK」について紹介します！

・HTH GO Ligaen（デンマーク最上位リーグ）
　2016-2017 シーズン 1 位／ 12 チーム中
　2017-2018 シーズン 4 位
・Women's EHF Champions League
　2017-2018 シーズン メインラウンド進出

昨シーズンから日本代表の RW 池原綾香選手（三重バイオレットアイリス）が移籍し、日本人として初めてヨーロッパチャンピオンズリーグに出場を果たしました。

来シーズンから、新たに日本代表 GK 亀谷さくら選手（Vipers Kristiansand/ ノルウェー）と RB 角南唯選手（北國銀行）が加入し、日本人選手は合計 3 人に。おりひめ JAPAN トライアルゲームズでは、日本代表同士の対決も楽しみですね！

左）シュートを放つ池原選手
右）新加入の亀谷選手（左）と角南選手（右）

○第 17 回女子アジア選手権兼 2019 女子世界選手権予選

開　催　日　平成 30 年 11 月 30 日（金）～ 12 月 9 日（日）　10 日間

会　　　場　八代市総合体育館、山鹿市総合体育館、熊本県立総合体育館

参加チーム　11 カ国（中国、日本、韓国、イラン、オーストラリア、ニュージーランド、カザフスタン、インド、ウズベキスタン、香港、シンガポール）

アジア選手権は、翌年の世界選手権の予選を兼ねた大会で、3 つの出場枠を巡って毎回熾烈な戦いが繰り広げられます。特に今回のアジア選手権は、来年の 2019 女子世界選手権熊本大会につながる大変重要な大会です。

今回から新たにオセアニアが加入することになり、オーストラリア、ニュージーランドを含めた 11 カ国がここ熊本に集結し、世界最高レベルのハンドボールを展開します。日本は、既にホスト国として世界選手権出場を決めていますが、この大会で優勝を飾り、来年の世界選手権に向けて弾みをつけてほしいですね！

前回（韓国水原）大会の様子

正しい水分補給はできていますか？

(公財)日本ハンドボール協会 医事専門委員会／スポーツ栄養士
和洋女子大学 健康栄養学類 スポーツ栄養学
永澤 貴昭

暑い日が続く中で適切な水分補給ができていないとハンドボールのパフォーマンス低下を招くことはもちろん、熱中症のリスクも上がります。そこで今回は、水分補給に関するお話をします。

季節を問わず適切な水分補給を行うことは、熱中症予防やパフォーマンスの低下を防ぐ観点からも非常に重要であり、特に多くの汗をかく夏場は、これらのリスクが上がるため、他の季節以上に水分補給に対する意識を高めることが必要です。

水分補給の不足による悪影響

水分補給の目的は、体温調節です。汗は、体内の熱を外に逃がすために重要ですが、水分補給が行えないと図１のように体温が上昇してしまいます。また、水分補給を怠ると体温だけでなく心拍出量、心拍数や血液量などにも悪影響を及ぼします。例えば水分補給を行わずに運動を続けた場合、心拍出量が低下し、心拍数が上がるため持久的な運動を継続するのが困難になることや、トレーニングの後半で急に動きが悪くなることがあるため、トレーニングの質が低下することが考えられます（図２）。

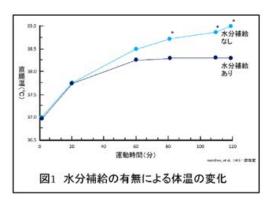
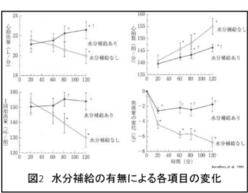
図1　水分補給の有無による体温の変化

図2　水分補給の有無による各項目の変化

水分補給の目安量

ハンドボール選手は、トレーニング中の水分補給として、どの程度摂取すればよいのでしょうか。表１に日本スポーツ（体育）協会の基準を示しました。どのようなトレーニングを行う場合においても、トレーニング前は 250 ～ 500ml の水分を補給すると良いことが示されています。トレーニング中は、運動強度や持続時間に合わせて表１に示してある水分補給量を目安にして摂取するようにしましょう。

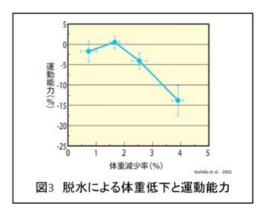
また、トレーニング前後の体重測定によって水分補給が適切に行われていたか否かの確認をすることができます。国際オリンピック委員会などの国際的な専門組織は、トレーニング前後に体重を測定し、2% 以上体重を落とさないようにとするべきであると声明を発表しています。その理由の１つとして、2% の体重減少を伴う脱水

表1　水分補給の目安量

運動強度		水分摂取量の目安	
運動強度（最大強度の%）	持続時間	競技前（30分前）	競技中
75～100%	1時間以内	250～500ml	500～1000ml
50～90%	1～3時間		500～1000ml/1h
50～70%	3時間以上		500～1000ml/1h 必ず塩分を補給

日本スポーツ（体育）協会　スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブックより

となるとパフォーマンスの低下が考えられることが挙げられます。体重測定が行える環境であれば、トレーニング前後に体重を測定し、適切に水分補給が行えているか確認してみましょう。

さらに、尿の色を見ることで水分補給が適切に行えているか確認することもできます。尿が薄い黄色の場合は、水分補給が適切に行えていると判断することができますが、尿の色が茶色がかっていたり尿量が少ない場合は注意が必要です。日ごろから尿の色や排尿回数などに注意しておくことが重要です。

図3 脱水による体重低下と運動能力

摂取すべき水分の種類

ハンドボール選手は､練習中の水分補給としてスポーツドリンクを摂取すると良いでしょう。水やお茶に比べて、スポーツドリンクには汗によって失われた電解質(ミネラル)が含まれているため､熱中症の予防に最適です。また、スポーツドリンクには糖質が含まれているため、エネルギーの補給を行うことができます。食欲のない夏場に上手に活用することで、効果的にエネルギーを補給することができます。しかし、練習中にスポーツドリンクを摂取すると口の中がさっぱりしない、口の中がねばつくなどの理由から水で薄めることも多くあるようです。

図４にスポーツドリンクの糖濃度の違いによる吸収率の変化に関するデータを載せました。運動終了後にさまざまな糖濃度のスポーツドリンクを摂取した結果、通常のスポーツドリンクを飲んだ人たちが最も血漿量が高くなりました。つまり、素早く水分吸収ができたのは薄めていないスポーツドリンクだったのです。練習中は、日常生活の時よりも味を濃く感じやすくなるため、スポーツドリンクを薄めることもあると思いますが、通常のスポーツドリンクでも問題ない場合は、できる限りそのまま摂取するようにしましょう。口がさっぱりしないようであれば、通常のスポーツドリンクを飲んだ後に、水やお茶を飲んで口をさっぱりさせるのもいいでしょう。

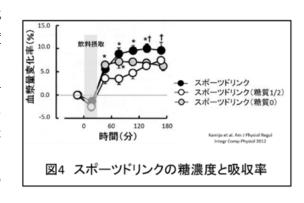



図4 スポーツドリンクの糖濃度と吸収率

近年では、さまざまな味や特徴を持った飲料が発売されています。自分の味の好みに合わせて、多く水分が摂取できるものを選ぶのもいいでしょう。適切な水分休を行い、暑い夏を乗り切りましょう。